



# お江戸舟遊び瓦版 1080号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり  
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

## 「江東5区広域避難推進シンポジウム」

～大規模水害時の広域避難実現に向けた意識改革と行動～

日時： 2025年1月25日（金）13時～15時半

所： 森下文化センター 多目的ホール

主催： 江東5区広域避難推進協議会

開会挨拶：大久保江東区長

こんなに多くの方の出席を頂き感謝したい。水害からどうやって助かるか、都と国と連携しているが、起こらないとは限らない、広域避難の知見を高めて欲しい。

基調講演 大規模水害時の広域避難の課題～自治体と住民との意識・情報共有～ 片田敏孝（東大）

・ 昨年元旦能登半島の大地震、そして9月の豪雨から自然とはこうなんだと知らされた。最近の気象はあまりに凄い、身を入れて取り組まなければならない。今回は従来より一歩進んだ報告とする。

### ○ 今までの広域避難に向けたアプローチ：何とかせねば

- ・ 2015年に江東5区広域避難推進協議会はスタートしたが、今では全国的取り組み（大阪湾、伊勢湾）だ。
- ・ 広域避難協議会を進める中で、当初は避難情報を出さずか出さないか、大きな議論になったが、膨大な浸水域内人口 250万人避難、2週間の長期湛水、厳しい現実を踏まえ ⇒ 「ここにはダメです」となった。
- ・ これまでは、広域避難先、移動手段の確保などの課題を直視せずに、250万人を減らすことに集中した…

「自然災害に対処しきれない事態があることを」良しとしない社会・個人の認識が障害となった！

### ○ 我が国の防災の大きな転換 ～真に国民の主体性を求める防災～

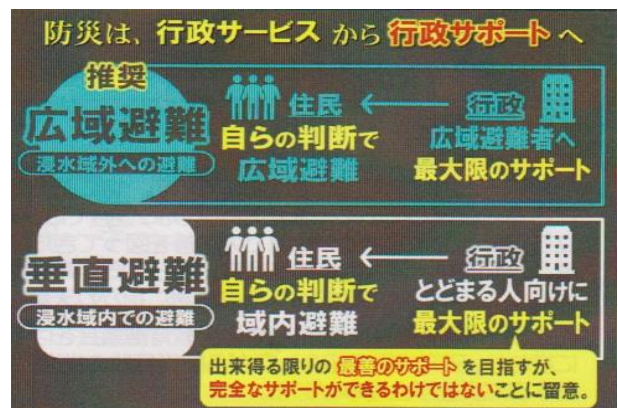
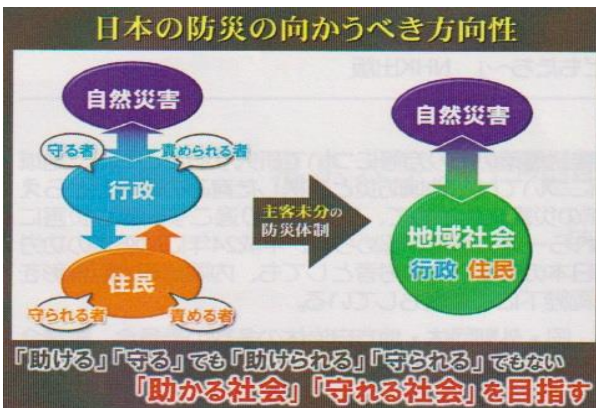
【平成30年7月西日本豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ】

#### → 住民主体の防災対策に方針転換

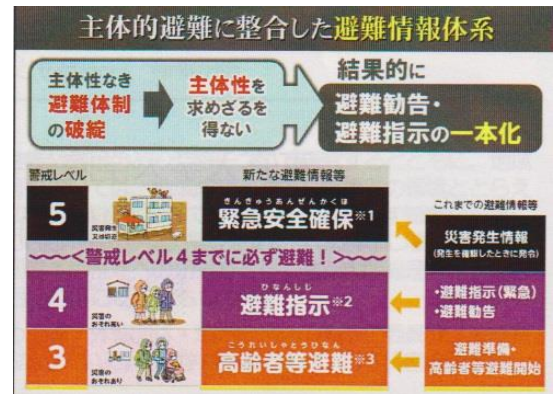
- ・ 現状：突発的な激甚な災害への行政主導のハード対策・ソフト対策には限界がある。
- ・ 目指す社会：住民が『自らの命は自らが守る』意識を持って自らの判断で避難行動を取り、行政はそれを全力で支援するという、住民主体の防災意識の高い社会を構築。

#### → 問われる「自分の命を守る」ことへの主体的な“姿勢”

#### → 防災は、主体的な姿勢を持つ住民に対する「行政サービス」⇒「行政サポート」へ



- ・ 「緊急安全確保」 何らかの災害が発生し、命の危険が迫っているために、直ちに身の安全の確保を！  
自分や家族の広域避難が必要かどうか自ら判断する！
  - ・ 行政/専門家：完全には予測しきれない！！  
⇔ 国民：国民の本音『行動指南が欲しい』
  - ・ 事態の展開が判らない行政は避難情報を出せない！？  
広域避難した人への最大限のサポート  
留まった人への最大限のサポート  
要配慮者、困難者への最大限のサポート
- 自治体と住民との意識・情報共有が重要



## パネルディスカッション「広域避難と地域連携～自治体間の協力と住民との情報共有のあり方」

- コーディネーター：片田敏孝 パネリスト：加藤孝明（東大生産研究所）、森久保司（内閣府防災担当）  
田代則史（都防災計画部長）、市村克典（江東区ボランティア・地域貢献活動所長）、山崎岳（江東区危機管理室）
- 片：最近、大規模災害が続き、防災意識に大きな進展が始まっている。先ず自己紹介などから。  
森：行政には限界があるに共感。能登に入り現地の厳しさを痛感した。江東5区260万人は大問題！  
田：片田氏は行政に言えないことを言ってくれた。勤務先三宅島噴火で自然の厳しさを体験した。  
山：江東区内では常に防災体制スタンバイにある。市：地震で自助・共助・公助を痛感している。  
加：愛知県濃尾平野出身なのでゼロメートル・マイナスが日常だった。地震防災、水害防災に進んだ。  
市民的には、行政にはもっと頑張れと言いたい。
- 片：この厳しい現実はどう対処するか？ ダメなものはダメという現実をどう対応するか？  
市：大規模水害を連想できない住民。地下鉄入口の水害対策も知らない。高齢化・自治会衰退…
- 片：明治以降に洪水対策が進み、住民の災害意識が劣化！ 江戸時代火事と葬儀がコミュニティを！  
森：関東大震災後、工業化が進み地下水を工業用水で揚水続け地盤が沈下しマイナス地域が発生した。  
アメリカのハリケーンでも湾岸地域が数カ月浸水した。日本は台風・巨大地震等課題山積だ！
- 片：江東5区マイナス地域は、防波堤という薄皮一枚で守られている。一ヶ所切れても大惨事だ！  
田：浸水域は、行政界を超える！ 広域避難の研究が不可欠だ！ 浸水予想地区の47万人住民にリスク診断書を配布し、避難所・備蓄品・啓蒙のアンケートを行い、課題対策検討を進め報告書に。  
山：江東区政調査ではトップが水害・高潮で、浸水対応型まちづくりを展開している。  
加：行政の足りない所を住民は知らねばならない。リスクの認識が少ない！ 市民の声が必要！！
- 片：250万人中、助かるのは1割25万人？！ ダメなものはダメ！今日をスタートにして欲しい！  
74万人の避難所：代々木センター、大学、……。江東区と〇〇村との協定は法的に断れない。  
田：江東5区のみならず、他区も同様の課題！ 避難所を融通し合うことの難しさ！！  
加：この会場に出てこない無関心層をどうするかが大課題！！
- 片：米のハリケーンでは住民350万人に対し広域避難情報で、650万人が逃げた！！ 日本と大違い。  
加：行政は公平性を採ろうとするが、努力する人が悪い思い、しない人が良い思いとなりかねない！  
市：江東区は関東大震災・大空襲認識が高齢者は高いが、若者は低い！ 平常から行政サポートへ
- 片：壮大な対策が必要な時代だ。コミュニケーションを問われねばならない！ 最後に一言？  
加：住民主体と我慢・努力・行政サポートは有限！！ 山：情報伝達の再検討。  
田：意識の向上、複合災害 森：防災意識、地域の地形 市：行政サポート
- 片田まとめ：ムリなものはムリと言える中で、サポートする、住民も精いっぱい頑張る！！
- 所感：江東5区広域避難推進シンポジウムに参加し、片田先生の「ダメなものはダメ」に驚愕した！  
誰一人取り残さないSDGs精神を大切に、安心安全なまちづくりを進めねばならない！！  
国土交通省荒川下流河川事務所『荒川氾濫』（[Bing 動画](#)）が警告する江東5区マイナス地域における地下鉄は、荒川氾濫時にあまりに危険だと痛感させられる、注目せねば！（文責 中瀬）